

## ミュンスターでのシンポジウム出張報告書

所属：理学研究科理学専攻 物質・生命化学領域 機能有機化学研究室

学年：博士後期課程2年

氏名：田中良來

出張先：ヴェストファーレン・ヴィルヘルム大学 (ミュンスター大学)・ドイツ

出張期間：2023年5月12日～2023年5月19日

出張目的：名大・ミュンスター大学による国際ジョイントシンポジウムへの参加

### ・概要

国際ジョイントシンポジウムへ参加し、ポスター発表を行ったほか、海外PIとのディスカッションを行った。シンポジウム1日目のポスター発表は昼食をとりながら行うというフランクなものだったが、現地学生との交流を深めつつリラックスした状態で発表を行うことができた。異分野の相手とも発表し合い、かなり分野が異なる+英語ということもあり苦戦したが、実のある議論をできたと思う。2日目のディスカッションにおいても、分野の異なる先生に対して英語で自身の研究を紹介し、議論を行うことができた。その中で、異分野ならではの視点からの議論や提案もあり、有意義な時間となった。また、今後当研究室に留学予定である現地学生の研究内容についてのディスカッションにも参加した。こちらは先生方同士でのスピーディーな議論がメインとなってしまったが、その後も学生同士で交流を深めることができた。



ミュンスター大学内の城



ミュンスターの街並み

### ・所感

この季節のドイツは名古屋よりも若干気温が低かったが、日の出ている時間が長く（夜9時ごろまで明るかった）、とても過ごしやすかった。道路には自転車がとても多く、歩道と同じように自転車専用道路があ

るのが驚きだった。また、学内や街並みは自然が豊かであり、かつ、まさに異国の地とも言えるような雰囲気のある建物も多く、自然と文化が共存した様子だった。シンポジウムの無い日は現地の学生が動物園や植物園などに連れて行ってくれ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

・謝辞

今回のシンポジウム派遣の機会を与えていただいた山口茂弘教授、ご支援いただいたGTR 学生支援室の皆様、現地に関わってくれた先生方や学生に感謝申し上げます。